

事例名称： 吾妻郡吾妻町 有限会社 ハルラン

完全循環型農業を目指した養鶏経営

《地方審査会において評価されたポイント》

本経営は公団営畜産基地建設事業で建設した養鶏経営で、業務開始以来7年間経過し、その経営が順調に進んでいるところである。

当経営の特徴は、資源循環型養鶏を目指し、鶏卵生産から販売に至る創意工夫と地域を取り込んだ循環型農業の取り組みが評価された。

鶏卵生産では、コスト低減努力として初生雛から育成し、導入を75日間隔で日齢の平準化を図っている。さらに、飼養管理面では量販店と協議の末、PHFトウモロコシ、大豆の配合や植物性油脂、蛋白を積極的に取り入れ、オリジナル配合を行うとともに、生産・GP・直売所を併設し、生産卵のピーアールなどに積極的である。

一方、資源循環型として、鶏糞の処理・販売を行い、地域畑作農家で活用する以外に、有機畑作物栽培に意欲的な組織を立ち上げ、自営する直売所でこれら農産物を販売するなど、循環型農業を構築している。

当地域に平成6年埼玉県より移転、地域への融和が重要であるとの認識から、雇用促進はもとより、除雪、地域行事への参加など、意欲的に取り組んでいるところは当経営の今後の発展に期待するところが大きい。

以上のような、経営内容を審査した結果、当事例は他の類似する経営に波及する必要があるとして、審査委員一同評価したものである。

経営実績（経営収支・損益等）を裏付ける取り組み内容等

1．飼育費の節減

初生雛を導入することで、飼育費の節減を図っている。

2．定時定量供給と規格卵生産

飼育羽数を現状のもとで定量供給を実施するための手法として、100%の更新率を行っている。規格卵生産のためもと雛導入には75日おきに導入して世代数を拡大している。

3．飼料にこだわった飼養管理

量販店との度重なる協議のもとで、こだわりの飼料原料を用いた指定飼料を給与している。飼料原料は植物油脂、蛋白、PHFのトウモロコシ、大豆を配合したものを給与している。

4．生産・GP・直売所のシステムによる自己研鑽

生産したものが消費者に評価される方式として、量販店への供給と個別消費者への供給によって、生産卵の自己評価を常に把握している。

5．循環型農業への取り組み

直売所を新たに建設、10月にオープンするが、ここでは当養鶏場で生産された鶏糞を肥料として用いた有機畑作物を販売するとともに、卵を原料とした加工品の販売並びに加工研修施設の設置などで、循環型農業への誘導と理解を求めていく。

6．鶏糞・有機質資源の有効活用

鶏糞処理施設はコンポスト、堆肥舎であるが、その調製量は6：4の割合で、とくに堆肥舎での調製には原料として地域内豚糞、落葉などを混入して耕種農家が求める堆肥を生産している。コンポストからでる堆肥は90%が袋詰め、10%がコンニャク畑へマニユアスプレッダで散布するが、すべて有償である。

7．地域への貢献

(1) 雇用促進

45人の雇用を行い、地域への雇用促進を図っている。

(2) 冬季の除雪協力

12月から2月は積雪地帯であり、養鶏場運営には2kmの除雪で支障ないが、地域住民の交通対策を支援するため、10kmの生活道路を除雪し、町、地域住民から喜ばれている。

現在までの先駆・特徴的な取り組み

1．地域住民との融和

地元行事（運動会、花火大会、祭り）等に率先して参加、卵を景品に提供。

この地域は豪雪地帯なので住民の生活道路の雪かきを実施。

2．従業員45名はすべて地元採用

地元あつてのハルランという考えから、従業員が定年になっても、本人が希望すれば再雇用。

3．鶏卵を販売するにあたり、いち早く紫外線、殺菌機、自動ヒビ・血卵検知装置、導線（洗浄区・汚染区）を分け、トレーサビリティにはインパックシールにて情報を消費者に提供。

平成7年に会社を立ち上げた時、今後鶏卵（それまでは農産物）が食品となりうることを察知、いち早く取り組む。

4．弊社の堆肥利用農家の野菜等を販売する

直売所立ち上げ、都市部の人々と地域住民または生産者との交流の場として広く利用を目指している。

5．吾妻町でお世話になり、養鶏経営が成り立っている今、少しでも何か役に立てればと地元農家と取り組み直売所を立ち上げた。また観光地としての魅力をアピールし、信頼しあえる農産物を提供したいと考えている。

6．地元耕種農家への堆肥をマニユアスプレッターにて還元

良質堆肥を還元することで農家の収益拡大。

7．自社の取り組みの中で、CMA（究極の循環型農業）を目指している。シーマとはスペイン語で完成という意味。

量販店から出る食品残さを鶏糞と混ぜ堆肥を作り農地に還元しできた生産物を消費者へ提供。今のところ残さの仕分けが大変だが少しずつ取り組んで行きたい

8．直売所およびホームページによる情報提供

直売所は今年度10月オープン予定である。ホームページについても直売所のオープンにあわせて、開設する計画である。

なお、アドレスは、{ [HYPERLINK "http://www5.kannet.ne.jp/~haruran/"](http://www5.kannet.ne.jp/~haruran/) }で予定している。

活動画像

	
<p>移転8年目の鶏舎全景</p>	<p>袋入り堆肥</p>
	
<p>耕作放棄地を借用してのそば栽培</p>	<p>初生雛の導入</p>
	
<p>自家GPセンターの一部</p>	<p>専用輸送車</p>